

JEITA ベンチャー賞

■対象

創業後 15 年以内で、電子情報技術産業発展への貢献が期待されるベンチャー企業
(日本企業が出資している海外のベンチャー企業、あるいは日本国籍の経営者によるベンチャー企業、または日本市場進出を検討する海外のベンチャー企業等を含む)

■審査・選考

成長性・先導性、波及性、社会性の 3 つの視点から技術産業の総合的な発展、経済発展に貢献しうるベンチャー企業を審査・選考し、表彰する

■受賞企業への特典

- JEITA 正会員 新規入会時にベンチャー優遇特例制度を適用(2 年間で会費免除)
- JEITA による各種情報発信(プレスリリース、JEITA ホームページ等)
- 各種活動への参画支援
(JEITA 会員企業と JEITA ベンチャー賞受賞企業との交流の場の設定や各部会との交流支援など)
- CEATEC 2019 の Co-Creation PARK 出展への優遇

■沿革

・2016 年 1 月 「JEITA ベンチャー賞」創設

・2016 年 3 月 第 1 回 JEITA ベンチャー賞 表彰式 開催 (2016 年 3 月 25 日)

< 第 1 回 JEITA ベンチャー賞 受賞企業 8 社 > (社名五十音順)

株式会社アロマジョイン	株式会社イーディーピー
株式会社 QD レーザ	つくばテクノロジー株式会社
株式会社トリマティス	株式会社 Preferred Networks
株式会社ミライセンス	株式会社ルートレック・ネットワークス

・2017 年 3 月 第 2 回 JEITA ベンチャー賞 表彰式 開催 (2017 年 3 月 16 日)

< 第 2 回 JEITA ベンチャー賞 受賞企業 7 社 > (社名五十音順)

株式会社アプライド・ビジョン・システムズ	
エアロセンス株式会社	株式会社エクスビジョン
株式会社 Kyulux	株式会社フェニックスソリューション
株式会社 FLOSFIA	株式会社 MUJIN

・2018 年 3 月 第 3 回 JEITA ベンチャー賞 表彰式 開催 (2018 年 3 月 14 日)

< 第 3 回 JEITA ベンチャー賞 受賞企業 6 社 > (社名五十音順)

株式会社アスター	株式会社 ABEJA
Hmcomm 株式会社	株式会社 ZenmuTech
PGV 株式会社	株式会社フォルテ

■過去の受賞企業一覧と審査評価(受賞当時)

第1回 JEITA ベンチャー賞 (2016年)

株式会社アロマジョイン

【審査評価】

(株)アロマジョインは、「香り制御装置」という新たなウェアラブルデバイスを提案し、携帯端末市場やゲーム・映画などのエンタテインメント産業などの世界に、香りの時空間制御が可能となる新たなサービスを提供する事業展開を進めている。また、同社の香り制御技術は、自動車・住宅・商業施設などの多種多様な空間の快適性向上に加え、香り刺激による健康増進などヘルスケア分野への展開も期待できる。

株式会社イーディーピー

【審査評価】

(株)イーディーピーは、気相成長による高純度ダイヤモンドの製造技術、成長した結晶の種結晶からの分離技術、および複数の単結晶を接続した大型モザイク単結晶の製造技術を事業化し、大型で高純度の単結晶ダイヤモンドの供給を可能にした。ダイヤモンドは、その高い硬度や優れた耐摩耗性などの特徴を生かすことにより、切削工具や光学部品の高性能化が見込める。また、究極の半導体といわれるダイヤモンド半導体の実用化も期待できる。

株式会社 QD レーザ

【審査評価】

(株)QD レーザは、産学連携により先駆的に開発した量子ドットレーザー技術に基づき、LAN/FTTH、材料加工、計測、ライフサイエンス、センサー、ディスプレイなど、多様なアプリケーション分野で事業展開を進めている。さらに、最近では、網膜走査型レーザーアイウェアを開発し、弱視者用機器として本格的な市場化をめざしており、今後の発展を大いに期待できる。

つくばテクノロジー株式会社

【審査評価】

つくばテクノロジー(株)は、レーザー誘起超音波を利用する非接触レーザー超音波可視化法による欠陥の検出可視化装置、乾電池駆動の省エネルギー・可搬型小型X線非破壊検査装置などを展開し、機材の軽量化と可視化により探傷データの抽出を簡便にしている。それにより医療・ロボット・インフラ・航空・宇宙など様々な分野での非破壊検査技術の運用がさらに進み、安全安心な社会構築へと貢献することが期待される。

株式会社トリマティス

【審査評価】

(株)トリマティスは、高速光デバイス技術と高速制御回路技術という2つの高度な技術を融合し、ナノ秒オーダーの光高速制御・統合を実現している企業である。同社の高い技術力は、特に光通信市場におけるトラフィック増大等の課題解決への貢献が期待されており、メジャーな工業製品への組み込みなど具体的な提携先さえ見つければ大きな飛躍が期待できる。

株式会社 Preferred Networks

【審査評価】

(株)Preferred Networks は、現在注目を浴びている、ディープラーニング技術に関し、いち早く取り組み、フレームワーク「Chainer」を開発し、オープンソースとして公開している。この取り組みに関して、大企業とも連携し、技術を極めようとし、更にオープンソースとして、世の中に広めようとする取り組みを評価した。

株式会社ミライセンス

【審査評価】

(株)ミライセンスが開発した、「3D 触力覚型」インタフェースという新たな HMI が実用化すれば、デジタルの世界において「さわりごごち」を疑似体験できるようになる。日本のお家芸であるゲーム・コンテンツにさらなる付加価値を加えることで、エンタテインメント産業の拡大が見込める。産業機器の遠隔操作や保守運用作業のトレーニングといった業務用途への適用など、新たな ICT サービス創出にも期待がかかる。

株式会社ルートレック・ネットワークス

【審査評価】

(株)ルートレック・ネットワークスが製品化した IoT とクラウドを活用した次世代型の点滴灌漑システム「ゼロアグリ」は一般的な土耕の施設栽培(ビニールハウス)を市場としており、かん水・施肥の「経験と勘」をセンサー情報と栽培アルゴリズムで代替し、省力化ならびに水・肥料の量をおよそ半減しながら、熟練農家で 25～30%の収量増を達成(国内実績)している。

第 2 回 JEITA ベンチャー賞 (2017 年)

株式会社アプライド・ビジョン・システムズ

【審査評価】

(株)アプライド・ビジョン・システムズは、3次元視覚技術をベースに、ステレオビジョン、レーザー計測および GPS を融合させた高精度な3次元計測および物体認識を実現するソリューションを提供している。ソリューションの代表的な事例としては、高精度の立体地図作成、道路や道路周辺インフラの点検、スポーツイベントにおける高精度の距離計測、ロボットの視覚システム、異物検査および身体計測等がある。アプライド・ビジョン・システムズは、今後も幅広い領域での発展を期待できる。

エアロセンス株式会社

【審査評価】

エアロセンス(株)は自社製の自律型無人航空機によるセンシングとクラウドによるデータの処理、管理を組み合わせた産業用ソリューションの開発・製造・販売を行っている。ソリューション例として、1)「南三陸町震災復興事業」で、従来手法 1/3 の工期で 90ha 全域の工事進捗の定量化、可視化を実施、2)福島第一原子力発電所事故による 160 カ所の除染した除去物の仮置き場の点検のための上空からの撮影を 1 区画あたり 30 分程度で実現、3) UAV 測量ワークフローの完全自動化の実現、などの今後の高齢化社会に必要な新たなソリューションを提供している。今後この分野でのさらなる貢献が期待される。

株式会社エクスビジョン

【審査評価】

(株)エクスビジョンは、先進の高速画像処理技術をロボット、FA、映像メディア、自動車、ドローン、医療分野などへ適用するアプリケーションの開発を先導して手がけている。エクスビジョンが手がける高速画像処理は、空間分解能の向上に加えて時間分解能の向上を重視し、様々な物体の動きを正確に検知、認識することが可能である。加えて、AI 技術との融合によって、行動認識を更に高精度にしている。エクスビジョンは、今後も他社で行っていない、先進的な高速画像処理技術を開発すると期待される。

株式会社 Kyulux(キューラックス)

【審査評価】

(株)Kyulux は、九州大学で発明された熱活性化遅延蛍光材料(TADF:Thermally Activated Delayed Fluorescence)と Hyperfluorescence(TADF と蛍光材料を組み合わせた材料)に関連する特許の独占実施許諾または譲渡を受け、高効率発光、低コストに加え高純度な発光色の実現に取り組んでおり、次世代の有機 EL ディスプレイ、有機 EL 照明の実用化を進めている。2016 年 11 月に Red Herring の Global Winner 100 に選出され、世界的にも注目されている。フレキシブルディスプレイや透明ディスプレイなどの新たな用途への応用が期待されている有機 EL の材料開発ベンチャーとして、今後の発展が大いに期待できる。

株式会社フェニックスソリューション

【審査評価】

(株)フェニックスソリューションは、金属対象物でも読み取り可能な RFID タグの開発に世界で初めて成功した。この技術により、従来手作業による膨大な手間と人件費がかかっていた金属資材管理の作業時間の削減が可能となる。従来難しいとされてきた金属資材や資産の一括管理ができるようになり、サプライチェーン全体にわたるトレーサビリティ管理やセンサー等との連携でインフラ管理に適用されることで、社会全体の IoT 化を加速することが期待される。

株式会社 FLOSFIA(フロスフィア)

【審査評価】

(株)FLOSFIA は、産学連携により先駆的に開拓したミスト CVD 成膜技術に基づき、簡便、安価、安全に、多種多様な金属酸化物の薄膜形成を可能とし、太陽電池や有機デバイスなど様々な用途・産業分野で薄膜ソリューション事業を展開している。また、最近では、次世代パワーデバイスとして期待される酸化ガリウム(Ga₂O₃)半導体のデバイス試作にも成功し、今後の発展を大いに期待できる。

株式会社 MUJIN(ムジン)

【審査評価】

(株)MUJIN は、画像認識結果によって、事前のプログラムを必要とせず、自らピッキング動作を自動生成・実行する智能ロボットの制御技術を開発している。膨大な手間と時間を必要とするティーチング作業が不要になることから、短期間でロボットを生産現場に導入できるようになる。多品種少量生産の製造現場に向くほか、人手不足が問題となっている物流業の作業効率向上にも効果が期待される。

第 3 回 JEITA ベンチャー賞 (2018 年)

株式会社アスター

【審査評価】

(株)アスターは、独自の積層技術を用いた理想的なモータコイルの形状設計により、従来の 1.5 倍の高密度化を実現するとともに放熱性にもすぐれた「アスターコイル」を実用化した。これは、モータの高出力化・小型化につながり、車載用モータばかりでなく、航空宇宙、家電、発電など様々な分野への適用により省エネルギー効果や産業競争力の強化が期待される。

株式会社 ABEJA(アベジャ)

【審査評価】

(株) ABEJA は、小売業に向けた店舗解析ツールを提供している。AI(ディープラーニング)技術を駆使したビッグデータ解析を実行することを特徴とする。カメラ画像から顧客数・顧客年齢・顧客の店舗内導線の歩き方などを分析、さらには天気・地理情報なども加味したうえで、店舗の業務改善の在り方を提案する。店員の感覚・ノウハウに頼ることなく、科学的なデータに裏打ちされた店舗設計が可能になる。IT 専門家のいない中小店舗でも、AI 利活用が推進するほか、海外への事業展開も期待される。

Hmcomm 株式会社(エイチエムコム)

[審査評価]

Hmcomm(株)は、産総研で開発された音声認識技術を実用化し、音声認識に特化した AI プラットフォームによるソリューション・サービスを提供している。窓口やコールセンター等での対人業務における会話のテキスト化、無人の音声受付等が実現可能である。また、騒音環境下での音声認識が優れており、車両や工場・プラントの機械装置の AI 異音検知による故障検知や予知への活用が可能である。今後、「音声ビッグデータ」のビジネスリソースとしての利活用への貢献が期待される。

株式会社 ZenmuTech(ゼンムテック)

[審査評価]

(株) ZenmuTech は、暗号化技術と、分散技術を組み合わせた「秘密分散処理」により、情報の漏洩防止を可能にするソリューションやデバイスを提供している。データ生成時にデータをブロックに分割して、各々を暗号化させると、暗号化されたブロックを複数の異なるデバイスに分散配置することにより、情報の漏洩を事実上不可能にしている。この秘密分散処理に基づいたソリューションは、近年頻発するサイバー攻撃に対しての強い防御手段となる、シム端末や IoT デバイスの一層の利用普及が可能となる。

PGV 株式会社

[審査評価]

PGV(株)は、大阪大学で発明された微小信号処理技術とフレキシブルエレクトロニクス技術をベースに、パッチ式脳波センサの製造・販売および脳情報ビッグデータを活用した脳波ビジネスを提供している。PGV(株)が手がける小型で無線計測可能なシート型脳波センサ(厚さ 6mm、重さ 24g)は、既存の大型特殊装置と同等レベルの計測精度を実現し、脳波計測を誰でも手軽に行える身近なものにして、医療・ヘルスケア・睡眠・注意力モニタリング・ニューロマーケティングなど、今後幅広い領域での発展が期待できる。

株式会社フォルテ

[審査評価]

(株) フォルテは、骨伝導ヘッドセットなどによる騒音環境下等での音声ソリューション及び車両等の移動体や人の管理のための位置情報ソリューションを提供する IoT 端末の開発を行なっている青森県に拠点を置くベンチャーである。地域拠点の特性を生かし、自治体や観光業者との連携により地域産業の振興につながるサービスの社会実装の実証に取り組んでおり、今後地方発から EXIT を目指すベンチャーのロールモデルとしても期待される。